

番号	路線名	起点	終点	経過地
一	八幡浜千丈線	千丈村大字搭柏白石橋	千丈村大字郷	
二	八幡浜三瓶線	神山村大字五反田布喜川橋	三瓶村大字朝立	双岩村大字布喜川
三	八幡浜宇和島線	神山村大字矢野町鳥越橋	三島村大字泊村界	舌田、川上、真穴、二木生、 三瓶の各村
四	八幡浜川之石線	八幡浜町	川之石町	矢野崎村、向灘川之石町楠浜
五	八幡浜日土線	喜須木村大字須川喜須木橋	喜須木村大字喜木八幡橋	
六	八幡浜三崎線	川之石町	三崎村大字三崎	伊方、町見、三机、四ッ浜、 神松名の各村
七	川之石大洲線	喜須木村大字喜木	日土村界	
八	川之石長浜線	宮内村（三島辻）	磯津村磯崎界	
九	塩成三机線	三机村塩成	三机村大字三机	

『西宇和郡制誌』

国道は『西宇和郡制誌』によると大正八年道路法の公布により西宇和郡議会は郡内道路整備に着手し大正九年三月臨時西宇和郡議会で、八幡浜三崎線として郡道に認定された。この路線は大正十二年郡制廃止に伴い県道に移管され昭和三年愛媛県議会で、三崎半島梯形道路計画が、決議され県道甲号線として本格的に事業が、推進され、ようやく昭和三十三年になって県道八幡浜三崎線の全線開通となった。

昭和三十七年には二級国道に格上げされて一九七号線となり、大洲・大分を結ぶ重要路線として浮び上り全線舗装認定道路（大正九年西宇和郡会）

八幡浜三崎間の

装と同時に改修も常に行われ、バス運行路線として整備が進む一方一九七号国道の新設工事が進み一部に工事を残すが、全線開通は間近である。この新路線は愛媛県と大分県を結ぶことになり三崎・佐賀関間を七〇分で結ぶ国道九四フェリーが昭和四十四年四月七日より運航を始めた。しかし新設工事は計画より遅れ勝ちで、フェリーの利用は不振で昭和四十七年四月からは一日三便となって現在に至っており全線開通後の運行に期待は大きい。また佐田岬半島の人々にとっても一日も早い全線開通が待たれるところである。最近四国・九州間の豊予海峡に海底トンネルを掘るといふ基本計画が決まり全国新幹線網に織り込まれた四国新幹線の建設具体化はできていないが、この海底トンネルは昭和四十九年から鉄道公団が調査して三崎・佐賀関の先端を直線で結ぶ線に幅約四キロ海底下二〇〇〜三〇〇メートルの範囲でボーリングや音波探査を実施した。海底下の部分は一四キロでトンネルの全長は両端の地下部分を含めて約五〇キロ青函トンネル（五三・八キロ）より少し短い。この海底トンネル工事は難工事が予想されているが、技術的に可能の見通しがついているという。遠い将来の完成であろうが、一日も早い完成が望まれる。それまでこの国道フェリーは四国九州を結ぶ重要航路としてその任務を果たすことであろう。

注 明治四十五年塩成三机間県道開通

大正十年川之石三机間県道指定

昭和三十三年八幡浜三崎間県道開通

昭和三十七年大分大洲線国道に昇格一九七号線となる。

昭和四十一年国道九四フェリー三崎佐賀関間開通

昭和四十七年伊方保内間国道新線工事着手

昭和五十二年八幡浜伊方間新線開通

昭和五十七年三崎大久間新線開通

昭和五十九年川之浜名取間新線開通

昭和六十一年末には三机掘切りまで開通予定